

家の低温にくれぐれもご用心を

近畿大学副学長・建築学部教授 **岩前 篤**



先般、NHKの夜の番組で住宅屋内の低温が脳卒中などの原因になっていることが取り上げられました。大きな反響となったようです。

番組は、冬の夜に、気がついたら玄関の横のトイレのところで倒れていた人の経験談から始まりました。40代、働き盛りでまさか自分が、と思っただことでした。いわゆるヒートショックと呼ばれる現象ですが、これまで高齢者が寒い脱衣所やお風呂で倒れるというイメージでしたが、近年、この認識が改まってきています。私は20年ほど前から、住宅屋内の温度と居住者の健康性の関係について研究してきています。訪問調査、WEBアンケート、オンライン・ヒアリング、様々な手段で実態の把握を試みてきましたが、今、明確

になったのは、非常に多量と考えられ、完全に置き去りにされました。そこが日本の「家は寒いことが取り上げられる」という事実です。多くの危険を脅かされていく、という事実です。多量を作ったと言えます。19世紀の中頃から始まった近代化の波に乗って、欧米社会は暖房を前提としてきた日本人の暮らしでは、本来の意味でのRoom heatingのことです。その字の意味のまま、部屋を暖めることを意味します。人がいてもいなくても、暖める対象は部屋なので、秋の終わりから春の始まりまで、冬中、つけっぱなしが基本です。ところが我が国の住まいは断熱性が、戦後、焦点が極端に低く、隙間だらけだったので空気を暖めることができません。よって、人体を直接暖める行為を選択しました。コタツをいくらか長時間使ったり、部屋の温度は上がり

暖かい暮らしが健康をもたらす

ません。これを私達は探暖と呼び、暖房と区別しています。

探暖生活が基本の為、居室と廊下、洗面所、風呂などと大きな温度差が度のことではありませぬ。今、日本の住まいを

「住まいは夏を旨とするエネルギーより小さな温度は18℃以上にする」ことを強く薦めています。日本の暮らしは健康に良くないです。

ドライン」という提言をまとめた。その中で、屋内の温度は18℃以上にすることを強く薦めています。日本の暮らしは健康に良くないです。

「住まいは夏を旨とするエネルギーより小さな温度は18℃以上にする」ことを強く薦めています。日本の暮らしは健康に良くないです。

「住まいは夏を旨とするエネルギーより小さな温度は18℃以上にする」ことを強く薦めています。日本の暮らしは健康に良くないです。

「住まいは夏を旨とするエネルギーより小さな温度は18℃以上にする」ことを強く薦めています。日本の暮らしは健康に良くないです。

2018年11月、WH
我々がつつましかに続けている探暖生活で使用エネルギーは、今では、窓に断熱シートを貼ることもありますが、アルミサッシは想像以上に熱を伝えるのでこの対策も有効です。

「住まいは夏を旨とするエネルギーより小さな温度は18℃以上にする」ことを強く薦めています。日本の暮らしは健康に良くないです。